



第12号
54.12.1

会報
やまぐち

発行者
山口市駅通り2丁目9番15号
山口県土地家屋調査士会
TEL 山口②5975
郵便番号 753

印刷所
山口市旭通り1丁目1の6
桜プリント企業組合
TEL 山口②1712

目次

• 報酬について	会長 三好敏夫 (2)
• 本部だより 例年通り秋の研修会を実施	企画部 (3)
萩支部チーム宿願の優勝なる	総務部 (4)
• 第四回司調ソフトボール大会奮戦後記	萩チーム監督 竹内重信 (5)
• 誌上研修 微分法の利用	本部理事 久野操 (9)
• 防長席 Aさんとの話	岩国支部 竹森正孝 (10)
• 随想 旅のメモから (3)	副会長 新本清人 (11)
• 防長人物抄 名物調査士紹介 ⑩	岩国支部長 高杉勇助 (15)
• お知らせ	(16)

平安橋（萩市）会長 三好敏夫 提供



山口県土地家屋調査士会

報酬について

副会長 三好敏夫

土地家屋調査士が受ける報酬額表は会則の定めるところである。

報酬額表を改訂するには、連合会が法務省の内意を得たものを単位会に於て總會に諮り、変更決議をして法務大臣の認可を受け実施すること、各位の既に御案内の通りである。連合会が法務省の内意を得る交渉に際して支障となるものの一つに、各会が実施している報酬額について一件当りの単価がまちまちであるということがある。

土地一件当り平均報酬
(年計表集計)

	21,813	円
口山取根島岡屋井幌阪京国	19,152	
山岡島島広福名福札大東全	23,041	
	18,582	
	34,736	
	42,744	
	48,942	
	72,126	
	81,954	
	85,564	
	80,546	
	40,655	

年計表を集計した数字が、報酬額改定とか、会の施策、会員の指導について重要な資料となるから会員は正しく年計表を記載しなければならぬ。さて現行報酬額には種々問題

点がある。

調査士法一部改正案を国会上程の際、合意事項として連合会の研究結果を尊重し速やかに改定を図るといふ一項がある。

だが改正案が廃案となっている今日、融合の場が遅延している。

それにしても、報酬額表の改定に当っては担当者に調査士の現場をよく見て貰うことが大事である。

依頼者との応接、補助者(調査士二人以上か補助者がいなければ測量が出来ない)と共に真剣な調査測量の外業を終え申請書作成をする。

法務局との交渉にも精力が必要である。

一カ月に何程の事件を消化することが出来るだろうか。

報酬額の内、申請書作成費用については司法書士と類似している。

調査、測量業務については、法務省に実態を知って貰わなければならぬ。

先ず現行測量費であるが、東京銀座の宅地がトランシットの五割加算、過疎地の畑で平板の五割減額の方法が規定されている。

吾々の業務の価値を考へるならば、精度区分に応じた様に密集市街地・市街地・村落農耕地域・山林原野地域に区分し、更に大、中、小都市、町、村、位に区分して、定められるべきではないでしょうか。

また、調査費であるが、医師の卓越した技術、弁護士の円熟した知識判断に匹敵して劣らない調査士の命であるところの不動産の調査費が余りに軽視されていることである。

明治二〇年に作られた分間図は誰もが一応その正確さを疑っている。

しかしその分間図と現状を如何に判断して登記等に記載するかという技術と価値を、会員が自負すると共に報酬については、法務省にわかって貰わなければならない。

登記簿に於ける表題部が正確でなければ不動産登記法は存在しない。

その為に調査士法第一条(目的)を以て、調査士の制度が出来たことを吾々は忘れてはならず、測量士と違ふところの所以である。

それはそれとして不服ではあるが、会員は会則遵守の上から現行報酬額を守って貰わなければならない。

昨今のように受託事件が著しく減少してきた時、起りやすいことは、他の会員に対する疑心暗鬼や、不当誘致の所業、新入会員のあせり等から、会員間の統制を乱し報酬額を安くしたりすることが起こる。

会員はあくまでも現行会則を遵守

した上で、調査士に適した報酬を獲得するよう一致団結しようではありませんか。

一方調査士の業務の拡大を図ることも焦眉の急である。

会員は進んで公共嘱託登記の受託に取組んでいただきたい。

地図を整備することを調査士の業務にする為に、財源確保の運動を起したい。

また、土木建築業者が地図、測量図の境界を重視するよう、指導すること、法務局と調査士のつとめであると思うと同時に、此処からも業務の拡大をはかることが出来ると信じている。

昭和五四年師走も終らんとしていきます。

くれぐれも身体に気をつけられて、夢と希望に燃える新年を迎えましょう。



本部たより

例年通り秋の研修会を実施

企画部

今年度は、事務研修と、一般研修とが、本部長権でおこなわれました。

事務研修

九月二日(日)一泊二日の山形県行徳山支店会議室において、研修会をおこないました。

参加者は八十九名で、「関係点数着区域の登記手続等について」というテーマをきかけて、山形地方事務所徳山支店長補佐の山崎耕右氏を講師にむかえ、有益な研修の一日でした。

古代から現代に至る土地制度は、いかに、明治以降、特に山形県がたどった特殊な土地制度に関する講義は、日際、これと深くかわりあっている。我々土地家屋調査士にとって、是非、知っておかなければならない事項でありました。

この日の山崎氏の講演は、氏の深い御承諾を得て、その資料の全てを印刷した論文として、来年度、会報の別紙の形で、紹介されることになりました。願って「山口県土地家屋

度と地区の歴史」。

来年は、土地家屋調査士制度始まって三十周年をむかえる年であり、その記念行事の一つとして、山崎氏の貴重な論文を会の事業として実施することにしております。関係請くたさい。

技術研修

十一月十七日(土)と十八日(日)の両日にわたって、下関市の郊外にある福泉荘温泉町において、本年度本部長権の技術研修をおこないました。

会場は、お多福旅館で、会員五十九名が参加しました。

前年度に引き続き、各支店対抗の測量実技コンテストを行なう予定で、下関支店の企画班の方々が選点に関する準備万端をことのえて当日をむかえたのですが、皮肉にも両日ともに雨天のため、ついに実技コンテストは中止的やむなきに至りました。

結果、下関支店企画班用達の測量モデルによって、久野隆講師の指導

のもとに、計算問題の解説がおこなわれました。

初日の夜は、会費徴収の夕食会には、怪雨の天候不良に対するウェッペンもあってか、このほかにはハッスルし、下関支店高田会員の演説よろしきを得て、盛の町川柳の夜は、会員総意の要を十二分に受け得たことと想います。

総会以外に、こうした県下全会員の研修の場として、研修会が利用されることもまた、研修会開催の意義の一つということもできるでしょう。課題久野用事の中まっつづいての御協力に、厚く御礼申あげます。



素直写真説明

平安橋

〔萩市郊外・平安古〕

この橋は、萩市内、平安古(ひやご)の裏にかけられていた石橋で、城下町から薩長三の里に至る道路にあたり、橋は明治初期(一八七四—七六)にかけられたものと伝えられ、萩の城下町に開かれた。それ以前には本橋が架けられていた。

萩の町の風情をしみじみと感じさせる橋といえよう。

第四回司調ソフトボール大会

奮戦後記

萩チーム監督 竹内重信

いやはや、何とも順調にでき上がったものである。

振り返ってみるに、我が萩チームの成績は、四位、三位、準優勝、そして第四回目の今大会で初優勝と、史上に残るサイクル記録をうちたてたのである。

まずは本年お相手して頂いた御井、宇部、下関の各チームに御協力(?)の程を感謝申しあげたい。

だが例に違わず我々の優勝までの道も遠く、辛くあり、その分だけ、味わった美酒も又一段と格別であった。

ここで後世までも残る(ヘチョット言い過ぎ)我がチームの戦績を振り返ってみる。

第一回戦は運良く不戦勝(但し大会運営委員の西山氏の話しによれば、萩チームは一チームの出場であるから、第一回戦は大会本部の温情であったものとか。感謝、感謝)

そして第二回戦は御井チーム(岩国支部)。相手チームは先刻第一回戦を終えたばかりで少々バテ気味、一気に倒せと鳴り物入りの応援を繰

り出し、我チーム選手の意気も高く見事打破。

おそらく御井チームは、我々の応援団に眩惑され、あれよあれよの内に試合を終え、気がついた時は後の祭りであったことだろう。

この応援団、どれだけ選手の意気軒高に努めてくれたことが、この先優勝までの要方の最大戦力であったのである。

応援団のメンバーは、三好会員の補助者の方々を中心に、控えにまわった選手が交替にこれを務め、ドラム、シンバル、トライアングルを持ち出し、コンパットマーチよろしく、頑張れ、頑張れ、〇〇〇〇、

××××××の黄色い声援は萩チームに喝、相手チームには激励を与え、場内の花となった。

試合は、スコアの上では楽勝のようにみえるが、ラッキーな場面が多く、心中は苦しい試合であった。

おそらく遠来の地から良く来たど、御井チームの情もあつたのだろう。とは言え、勝負は勝負、敗れる前井チームの高杉選手の顔に、無念の

表情がかけられたことはみすこせず、見て見ぬふりをしたものである。

次いで第三回戦(準優勝戦)は宇部チームであった。

勝てば昨年に続く優勝戦が待っている。だが相手チームは投、打、守ともに揃った好チームで、この準優勝戦まで、打を主に、日の出の勢で進出してきたチームである。

試合は奇しくも投手戦となり、白熱したゲームに一投一打声援が湧いた。

宇部・兼清選手の巧守などは大リーグのブロック選手並で、我がチームの苦戦は続く。

熱球に時を忘れ、緊迫したゲームも最後の打者、龍巻選手の一振で戦いは終わった。

2対1のスコアが試合を物語る。前の試合の得点がまるで嘘のような、稀にみる好試合と賞賛を得た。

選手の顔に疲れが表われ、応援団の声援も細くなったのはこの頃である。

我チームは今大会にそなえた合同練習もなく、ただ単独練習をしていて欲しいと呼びかけただけで、各人の技量の程を、私はつかめないままに試合に望んだのである。

守備位置に、打撃順に、控えに選手は同一つ不平も言わず私の指示に従ってくれたことが、監督として一番うれしかった。

さて、いよいよ優勝戦。試合前、

萩チームの予想屋達は、若し萩が優勝戦に残るとすれば、相手は下関チームだろうと話していた。

否、萩ばかりでなく、他チームの評も違わずそれほど下関チームの実力はピカ一である。

宇部チームに勝った余勢なんて、もう微々たるもの。後は気力で戦うものといえながらも、誰もが未だ知り得ぬ優勝の味を心していたことと思う。

片や県下最大都市から生え抜きの下関チーム。片や山口県の子ベツト田舎者の萩へこのチベツトの語源は、下関支部、高田先生の萩に対する酷称であるが、我々はむしろ大膽的見地と有難く採っている。

優勝戦に望み消沈気味で疲れきっている選手に喝を入れたのは前述の応援団であった。

あの天女の様に気高くして、優しい声で、ニューエ最後の試合だから、もう一度お互い頑張らましよう、とこられては、男こそ又奮起一番雄叫ぶ声をあげ、準優勝に挑んでいったのである。

評判通り、下関チームは強く、投手を務めた私も、一球、一球強くボールを握りしめ立向ったものである。本都役員や試合を終えた他チームの選手の方々が観戦の中、試合はシューゲーゲームの展開となり、素晴らしい見せ場も数々あった。あと二回、あと一回と選手に、自分にいきか

ノせ投げ続けた。

最後の打者を打ちとった時は全身から力が抜けていくようであった。どの選手も応援団も同じであったろう。初優勝である。誰の顔も笑っていた。嬉しい顔である。

日頃顔をあわすことも少ない仲間同志であるが、一丸となって成し遂げたこの業一つに恐しい程までの親近感を覚える。得難い気持である。

表彰式では、昨年より一段と大きいトロフィーと、これ又一本多い御酒を頂戴した。

各チームから最高プレー賞には我チームから、試合に貢献大だった上村選手と、応援団長を務めた増山晴美（二十三才、花盛りの独身女性）さんを選んだ。

仲間から大きな拍手を受け皆んなで成果を賞賛しあったのは萩への帰途、立ち寄った防府市内の食事処、うどんの「讃岐」であった。

山口県のチベット我が萩チームのメンバーには、世間を賑わす、ドラフトもトレードもなく、いつに変わりばえのない顔ぶれである。

年々歳を拾い、この元気いつまで続くことやら……。次回からは、又一から出直しです。

結びに今大会萩チーム最年長者は、小林章先生（六十一才）。最年少者は、大田忠男補助者生（二十一才）。出場者数十五名（内、五名が補助者生）、平均年令三十七才強。

誌上研修

微分法の利用

本部理事 久野 操



側面には、固定値に流石を伴う。この潮流をとりあつかうのは、代数的に解明することもできるが、微分法を用いればどんな形式の計算式においても微分係数を求めて、これを操作することによって解明されるので便利である。

このために必要な最小限の微分法について知っておくことがたいせつである。

A) 変数と関数

たとえば、代数学で、

$$\begin{array}{l} 3x = 10 \quad \text{-----} \quad \text{①} \\ 3x + 2y = 11 \quad \text{-----} \quad \text{②} \\ 2x + y = 0 \quad \text{-----} \quad \text{③} \end{array}$$

に対して、その方程式が1次式であれば1つ、2次式であれば2つあるから、これを解いて x あるいは x 、 y の値を求めることができる。

しかし、 $y = x^2$ において、 $x = \pm 1$ 、 $y = 1$ だけでは、すべての解ではない。なぜなら、 y の値をいかにようにも適当に定めれば、 x の値は、これによって定まるのである。だから x か y かどちらか一方だけは勝手に定めてもよい。すなわち、 x 、 y は一定の値をもっていないから、その値は変化しうる値をもっているものを変数という。

2つの変数をもっている1つの方程式において、一方に一定の値を与えれば、他の変数の値はこれを算定することができる。

2つの変数がこのような関係にあるときは、その第2の変数は、第1の変数の関数であるという。

y が x の関数であるとき、 x にわずかの変化を生じたとき、 y には何ほどの変化を生じるか、次の例で示そう。

【例題1】

正方形の辺を x 、面積を y とすれば、

$$y = x^2$$

いま、 $x = 3$ とし、 x が3.1、3.01、3.001となっ

たときの y の変化を示すと、

x	$y = x^2$	y の変化量
3	9	
3.1	9.61	0.6 + 0.01
3.01	9.0601	0.06 + 0.0001
3.001	9.006001	0.006 + 0.000001

これを見ると、 y の変化量を示すものは、2つの部分からなり、その第2部分は、 x の変化が小さければ小さいほど急に小さくなることである。

ところが実用的にはあまり小さい部分は知らなくてもよいから、この第2部分を省略して第1部分である0.6、0.06、0.006を定めればよい。

ここで、その第1部分を知るには、どんな法則によればよいか、その法則を見つけるために、 x の変化を Δx 、これに対応する y の変化を Δy と表わせば、

$$\begin{aligned} y &= x^2 \\ y + \Delta y &= (x + \Delta x)^2 = x^2 + 2x \cdot \Delta x + (\Delta x)^2 \\ \Delta y &= 2x \cdot \Delta x + (\Delta x)^2 \end{aligned}$$

Δx が小さければ小さいほど、 $(\Delta x)^2$ は小さいものであるから、これを省略して、

$$\Delta y = 2x \cdot \Delta x$$

この右辺の $2x \cdot \Delta x$ は、前述の0.6、0.06、0.006に相当するものである。そして、その x の変化 Δx に $2x$ を掛けることによって求められる。たとえば、

$$x = 3 \text{ が、}$$

$$x = 2.9 \text{ とすれば、}$$

$$\Delta y = -0.1 \times 2 \times 3 = -0.6$$

$$x = 2.98 \text{ とすれば、}$$

$$\Delta y = -0.02 \times 2 \times 3 = -0.12$$

となることがわかる。

ここで $2x$ は、もとの x^2 からどうして得られるか、いいかえれば $\frac{dy}{dx}$ は、どうして x^2 から得られるかを考えなければならぬ。

以上のよう、 y の変化の x の変化に対する比 $\frac{dy}{dx}$

さえ知れば、 x の小変化に伴って、

- (1) y の変化量 Δy
- (2) したがって、 y の変化率 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$
- (3) 変化後の y の近似値、すなわち、 $y + \Delta y$ の概略値
- (4) y の変化の状態

【例題2】

1辺が5mの正方形で辺の測定に0.05mの誤差があったとすれば、面積におよぼす誤差は何%か。

(解答)

面積 $y = x^2$

誤差 $\Delta y = 2x \cdot \Delta x = 2 \times 5 \times 0.05 = 0.5(\text{m}^2)$

誤差率 $\frac{\Delta y}{y} = \frac{2x \cdot \Delta x}{x^2} = \frac{2 \cdot \Delta x}{x} = \frac{2 \times 0.05}{5} = \frac{2}{100}$

これを%で表わすと、

$$100 \times \frac{\Delta y}{y} = 100 \times \frac{2}{100} = 2\%$$

【例題3】

頂角が 30° で、これをはさむ2辺が60mである2等辺三角形がある。いま、辺が60.02mであれば、面積の近似値はいくらか。

(解答)

面積 $y = \frac{1}{2} x^2 \cdot \sin 30^\circ = \frac{1}{4} \cdot x^2$

ただし、 x は辺を表わす。

面積の変化量

$$\Delta y = \frac{1}{4} \cdot 2x \cdot \Delta x = \frac{1}{2} \times 60 \times 0.02 = 0.6$$

面積の近似値

$$y + \Delta y = \frac{1}{4} \times 60^2 + 0.6 = 900 + 0.6 = 900.6(\text{m}^2)$$

以上のことからわかるように、われわれは $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ を求める必要を知ったのであるが、前例によれば、 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ は一定の値をもっていない。

しかし、 Δx が小さければ小さいほど $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ は一定の値 $2x$ に近づくことを知った。ゆえに、 Δx がごく小さいときの $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ 、すなわち、 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ の極限を考えればよい。

B) 微分係数

関数 $y = f(x)$ を図で表わすと、一種の曲線になる。

この曲線上の任意の1点Pをとり、その座標を x 、 y とする。

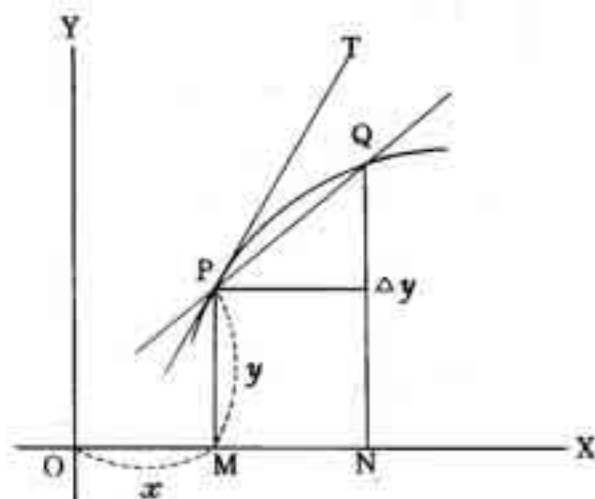
PからY軸に平行に、X軸までPMをひけば

$$OM = x \quad MP = y = f(x)$$

また、曲線上に他の1点Qをとって、Y軸に平行にQNを、X軸に平行にPRをひき、

$$MN = PR = \Delta x$$

$$RQ = \Delta y$$



とすれば、Q点の座標は、

$x + \Delta x$ 、 $y + \Delta y$ であるから、

$$y + \Delta y = f(x + \Delta x)$$

$$\therefore \Delta y = f(x + \Delta x) - f(x)$$

ゆえに、 x が Δx だけ増せば、 $y = f(x)$ のほうはこれに応じて、

$$\Delta y = f(x + \Delta x) - f(x)$$

だけ増す。この Δx を x の増分といい、 Δy をこれに対する y の増分という。

この関係は Δx 、 Δy 、が負の増分であっても同じ理くつである。

次に、PとQを通る割線を引けば、この割線がX軸となす角 $\angle QPR$ の正接 (\tan) は、 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ であって、 x の増分に対する y の増分の比である。すなわち、

$$\tan \angle QPR = \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x}$$

これを割線PQの方向正接またはこう配という。

Qが曲線にそって、Pに限りなく近づいたときは、割線PQは、一般に一定の極限の位置PTに限りなく近づいていき、この割線の極限の位置PTは点Pにおける曲線の接線となる。この点Pを接点という。

このようにQがPにかぎりなく近づけばMN、すなわち、 x の増分 Δx はだんだん小さくなって、0にかぎりなく近づき、RQ、すなわち、 y の増分 Δy も、これに従ってだんだん小さくなってかぎりなく0に近づく。いいかえれば、QがかぎりなくPに近づいて割線が接線となるときは、 Δx も0となり、 Δy も0となって、方向正接 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ は $\frac{0}{0}$ の形になり、これは不定ではなく、その極限值は、一般に存在する。

たとえば、 $y = x^2$ において

$$y + \Delta y = (x + \Delta x)^2$$

$$\Delta y = x^2 + 2x\Delta x + (\Delta x)^2 - x^2$$

ここで、 Δx を0とすれば、 Δy も0となるけれども、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{2x \cdot dx + (dx)^2}{dx} = 2x + dx$$

において、 $dx=0$ としても $\frac{dy}{dx}=2x$ という一定値が存在する。これを極限値の記号で表わせば、

$$\lim_{dx \rightarrow 0} \frac{dy}{dx} = \lim_{dx \rightarrow 0} \frac{f(x+dx) - f(x)}{dx} = 2x$$

dx 、 dy がかぎりなく0に近づくと、これをそれぞれ dx 、 dy の記号で表わすことにしている。

d は微分(differential)の頭文字を用いたものである。

しかし、実際の測量の場合に用いる微分式において、そのほか $d\alpha$ 、 $d\theta$ 、 $d\ell$ 、 dn ……

などの記号を必ずしも0に近い数値としなくて、観測値に較べれば、0に近いという意味で、これらを誤差と考えることを理解されたい。

ところで、 x の増分に対する y の増分の比 $\frac{dy}{dx}$ の $dx=0$ となるとき極限値を $\frac{dy}{dx}$ と書くのである。

以上述べてきたことから記号で示すと次のとおりである。

$$\lim_{dx \rightarrow 0} \frac{f(x+dx) - f(x)}{dx} = \lim_{dx \rightarrow 0} \frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dx}$$

この極限値 $\frac{dy}{dx}$ を y の微分係数または略して微係数と呼んでいる。

微分係数は、これを一般に関数と考えて導関数といひ、次のように略記号を用いることもある。

$$\frac{dy}{dx} = \frac{df(x)}{dx} = \frac{d}{dx}f(x) = f'(x) = y'$$

このように、ある関数の微分係数または導関数を求めることを、微分するという。

(注) $y=x^2$

この微分係数(または導関数)は、

$$\frac{dy}{dx} = f'(x) = 2x$$

と書くことができるが、 $2x$ は、変数 x の一つの関数と考えられ、しかもそれがもとの関数 $y=f(x)$ から微分することによって導き出された関数という意味で、これを導関数というのであるから、 $\frac{dy}{dx}$ という記号は、主として微分係数を表わすために、また $f'(x)$ という記号は、導関数を表わすために区別して用いられる。

なお $\frac{dy}{dx}$ は、 $\frac{dy}{dx}$ の極限値を表わすものであるからこの点から $dy \cdot dx$ は単独にはなんの意味もない。

いま、ごく小さい dx 、 dy を表わすのに、それぞれ dx 、 dy を用いることを約束するならば、

$$dy = f'(x) \cdot dx$$

したがって、

$$dy \div dx = f'(x)$$

といってもよい。

すなわち、 $\frac{dy}{dx}$ は、微小変数 dy +微小変数 dx を意味するものと考えてよい。この場合、 dx 、 dy をそれぞれ x 、 y の微分と名付け、 $f'(x)$ は微分 dx の係数となる。

前述の正方形の辺と面積との例において、

0.6 0.06 0.006は、 dy に相当し、

0.1 0.01 0.001は、 dx に相当するもので、これらのいずれをとっても $dy \div dx$ すなわち、

$$\frac{dy}{dx} = 6$$

となる。この6はこの場合の微分係数である。

C) 主な微分係数

(1) $y=x^n$ (n は定数)のときの

$$\frac{dy}{dx} = n x^{n-1}$$

(解答1)

代数計算からわかるように、

$$\begin{aligned} (a-b)(a+b) &= a^2 - b^2 \\ (a-b)(a^2 + ab + b^2) &= a^3 - b^3 \\ (a-b)(a^3 + a^2b + ab^2 + b^3) &= \\ & a^4 - b^4 \end{aligned}$$

にして一般に、

$$\begin{aligned} (a-b)(a^{n-1} + a^{n-2}b + \dots + ab^{n-2} + b^{n-1}) \\ = a^n - b^n \end{aligned}$$

となる。したがって

$$\frac{a^n - b^n}{a - b} = a^{n-1} + a^{n-2}b + a^{n-3}b^2 + \dots + b^{n-1}$$

いま、 $a=x+dx$ 、 $b=x$ とすれば

$$\begin{aligned} \frac{(x+dx)^n - x^n}{dx} = \\ (x+dx)^{n-1} + (x+dx)^{n-2} \cdot x + (x+dx)^{n-3} \\ \cdot x^2 + \dots + x^{n-1} \end{aligned}$$

次に、 $dx \rightarrow 0$ とすれば、左辺は $\frac{d}{dx}(x^n)$ となり右辺は、

$$\begin{aligned} (x+dx)^{n-1} \rightarrow x^{n-1} \\ (x+dx)^{n-2} \cdot x \rightarrow x^{n-1} \end{aligned}$$

$$(x+\Delta x)^{n-3} \cdot x \rightarrow x^{n-1}$$

となり、すべて、 x^{n-1} になることがわかる。

したがって、右辺は $n x^{n-1}$ になり、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx}(x^n) = n \cdot x^{n-1}$$

(解答2)

$y=x^2$ のとき、 $\frac{dy}{dx}=2x$ を証明してみよう

$$y' = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x+\Delta x) - f(x)}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{(x+\Delta x)^2 - x^2}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{x^2 + 2x \cdot \Delta x + (\Delta x)^2 - x^2}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} (2x + \Delta x)$$

ここで Δx を0とみなして

$$\frac{dy}{dx} = y' = 2x$$

(解答3)

$y=x^3$ のとき $\frac{dy}{dx}=3x^2$ の証明

$$y' = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x+\Delta x) - f(x)}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{(x+\Delta x)^3 - x^3}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{3x^2 \cdot \Delta x + 3x(\Delta x)^2 + (\Delta x)^3}{\Delta x}$$

$$= \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \{ 3x^2 + 3x \cdot \Delta x + (\Delta x)^2 \}$$

ここで Δx を0とみなして

$$\frac{dy}{dx} = y' = 3x^2$$

(公式)

$$y=x^n \text{ の } \frac{dy}{dx} = n x^{n-1}$$

上の公式は、微分法の最初に出てくる公式であるが、測定の誤差を解明するためには、さらに多くのことを学ばなければならない。

次号から、いろいろの例題をみなさんの前に提示して、微分法がいかにか役立つかを理解いただければ幸いである。(つづく)

註 この稿は、中川徳郎氏著「図解・測量実験演習」を参考にさせていただいた。



Aさんとの話

岩国支部 竹森 正孝

十月五日どっさり郵便物が来た。

その中の一つの調査士会からの封筒を開けてみると十一月十二月の会費督促通知、表示登記の榮軒旋の連絡等に交って前田広報部長よりの「会報掲載記事執筆について」なる文書が目についた。多士済済の山口会にあって何で小生ごとき者に？と良く読んでみると「記事に清新な新風をもたらしべく」「新会員の自由な発言の場」を設けることを企画したとあった。なるほど入会間も無い新人は業界の壘・芥？に染っておらず、別の世界からこの業界に入ってきた者もいるだろうからフレッシュな感覚で調査士業界を眺められるだろうとの広報部長のアイデアかと得心がいった。しかし小生は五年前に司法書士の仕事を始め、この業界の「しがらみ」がいささか身辺に纏り付いてしまっているのです、ご期待に添えるや否やとはたと考えてしまった。そうそう元々懸け者の上に司法書士会会報掲載の防府の木戸先生の画期的な諸論文や彼の木茂父子の名著「不動産登記の原理」を読んで、

仕事を「頂いて」来ることに對する意欲がいささか減退して暇な時には机に足を乗せた行儀の悪いスタイルで興味のある本など読んでいる時にお互い時間を持余して遊びに来る調査士で最近合格したAさんと話したことなどを再録してみるとどうだろうと思ひ至った。無駄話が多い中から、名譽ある我会報を汚さないよう、しかも広報部長のご期待にも反しないよう、あやふやな小生の記憶を手繰って記したものである。Aさんの発言の趣旨を正確に表現していない点もあることと思ひ、これは偏に小生の記憶力の悪さのせいである。以下Aさんの発言をA、小生のそれをTとする。

に行きNさんが支局に実情を聞きに来ていましたよ。

T 僕も最近仕事を始めたばかりでどういう理由でこんなことになったのか良く判らないが、調査士側も法務局も昔の分限図に對するイメージで処理したのが根本原因だと思ふんですよ。僕も最近やっと平板を買って「土地調査士」のヒヨコのようなことを始めたんで、他の人が提出している地積測量図を閲覧する機会があるんですが、残地部分へ測量をしない部分の表示がしてないのが結構有るんですよ。確か受験の時は残地部分は必ずしも求積は要しないが形状全部の表示は要すると勉強したんで、調べてみたら登記研究の一八三号に局長通達を以って表示すべしとあるし、最近来た登記課と企画部との協議会議事録にも現地の形状に「近いもの」を表記しろとあるんです。

A いや、その件は一説によると登記所の事務処理の便宜のため提出している分割線を記入した地形図を提出すれば残地部分の形状の記載は不要であるとする見解もあるんですよ。割りもしない残地部分を分限図を伸ばして記入したばかりに、依頼者がスケールで辺長を読んで現地と違ふと文句を言ってきたとS君が言っていましたよ。

T それにしても、協議会議事録の「近いもの」の表現は微妙ですね。

分限図を伸ばしたもので良いと言うことですかね。それとも一応測量はせねばならんが、実測に基づいた地形が書いてあれば求積迄は不要と言うことですかね。

A 登記課・企画部苦心の合作と言う処ですかね。まあこの問題は両者でも少し煮詰めて貰いたいですね。それはそうと会員名簿を送って来ましたね。最後に補助者名簿がついてますが、補助者が数名居て堂々と登記所に出入りしているのに一人も載ってない人がいますね。

T 本当ですか。一寸見てみましょう。……なるほど載ってないですね。どうしたんですか。

A こういう点は会側も少し厳しい態度を執って貰わなくては。次の国会で調査士法が改正——いや特認導人となれば改悪ですかね——されれば司法書士法と同様注意勧告権が会に付与されようと言うのに……。

T 僕も会費の督促が来ましてね。あまり人様のことは言えた義理では無いんですがね。まあ会にはもう少し指導力を発揮して貰いたいですね。身内のことだからと言って遠慮しないで貰いたいですね。

ところでAさん公職には入りましかか。僕は先月入会の申込をしときましたよ。

A いや入る気ないです。受入体制ができてないと思いますし、公職規則に既得権者擁護の附則があるよ

三随想三

旅のメモから(3)

副会長 新本 清人

ヒマラヤの登山基地ネパールの首都カトマンズ空港を立った。

ロイヤルネパール航空機は右窓に映えるヒマラヤ連峰に別れを告げて、再び国境を超えインドへ。

古いカルカッタの街とは打って違って、美しく整備された市街、インドの政治・文化の中心地として発達したイギリスの手によって建設されたと聞く首都ニューデリーの玄関、ニューデリー空港に着陸したのは、昭和四十八年十一月三十日午後六時三十分である。

通関手続、時差修正をして時計の針を十分遅らせる。アシカホテル到着。

午後七時三十分、部屋割に従い夕食。そして思う存分な入浴にてネパールでの汚れと疲れをいやし、豪華なホテルの室内装飾。夢路にも王族貴族の気分とはこんなものかと悦に入り床に入る。

さて、インドを訪れる人が最もよく選ぶコースとして、ニューデリー、アグラ、ジャイプールの三都市を結ぶ

三角のコースは、黄金のトライアングルと盗いわれているそう。

宝庫といわれる程数多い遺跡と荒れ果てた誰しなく続く砂漠に似た褐色の大地。突然映えるタージマハール(白き美姫)の白く妖しい姿に美しい城、そして廟。又城塞。

この国の古い歴史と貴い遺跡の儼然と残る神秘の大陸に、旅行間しほし心うたれたのである。

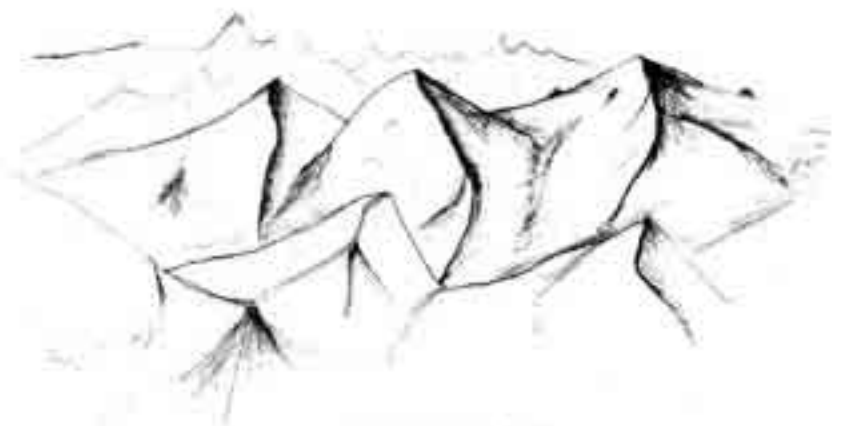
翌十二月一日一行は、バスにてアグラに向って走る。

飛行機なら三十分のコースであるが、インド国産バスでは四時間を要し、その道中は又格別である。

午前八時四十分ホテルを出発。

丁度時間帯は通勤車のラッシュ。通勤車というも実は全部自転車である。自転車を持ち、これに乗れる者は、この国では立派な中産階級であり、この人達はすべて国家公務員であると説明された。

ターバンを巻いている人はヒンズウ教徒で、その巻き方によって階級が分別されているとき。



ヒマラヤの山のつもり

公用語はヒンズウ語と英語が用いられ、国民生活の源となる燃料について説明すれば、牛の糞は貴重品であり、固めて乾燥し豆煉炭の代用とする。そのためか町外れの屋根上には牛糞の乾してあるのがあちこちに見受けられる。

又、出たばかりのグニャグニャのそれを籠に入れて頭に乗せ家路へ辿る女の子等の姿も数多く見かけた。バスが時々急ブレーキをかける時、

どうでわね。

T いや僕も公職運だよりを覗ましてね、近くでは岡山などは倉敷市と年間契約をして結構やっているんですよ。奥土木と契約迄に漕ぎつけた点に敬意を表してまあ入ってみるかと言った程度ではあるんですがね。行く行くは我々で公職をやらなくちゃ。表示関係の嘱託登記が登記所の事務処理のネックになっているようですからね。

(ここで今日初めての依頼者が入って来る)

A それじゃ、Tさんお客さんのようですよ。どうも長々と……

T いやどうも……又寄ってください。(昭五十四・十・二十六記)

それはヒンズウ教徒の専ら牛の集団散歩に出合った時である。

バスがトイレ休憩のために止った部落には必ずと言っていい程、コブラ(蛇)を籠で踊らせ、コブラとマングウスの闘争をショーとして観光客に閲覧料をねだる大道芸人的現地のきたない汚れたオッサン等の生活にみじめさを見る。

更に少女へ八、九才の小学生位が各々抱いている子供の多いことに驚き、その幼児の出生の暗い秘密を聞いて又驚いたものである。

この国の人口動態調査の不可能は、一日の出生人口と死亡人口の差は出生人口の方が多く、毎日人口が三万

人ずつ増えて行くとの説明に暗然とする。

いよいよ経過目的地アグラに入る。十六世紀から十七世紀の終り頃迄三百年近くも繁栄を続けたムガル王朝第三代の英傑と言われたアクバル王の墓と説明された廟を訪ねる。この三代王は、西欧そしてインドの繁栄をもたらした施政、それは階級、宗教、貴族、地主、そして農民等を上手に統率した最も偉い大帝であったと説明され、堅固なこの廟、古城とも言うすばらしい古代建築の美しさに驚嘆し、その古代文化の大を知る。

アグラと言えばタージマハールと言われる程。世界最高の大理石建築として有名なタージマハールに向う。この建物はシャージャハーンと言う帝へ時代的にはアクバル大帝の孫相当との由一がその最も愛したムムターヅマハールと言う三十九才にして美しくこの世を去った妃の死を悼む余り、その幽静の願を容れて建築したと言われる廟であり、妃の死より一年後に着工され完成迄に実に二十二年の歳月を要したと伝えられる。二万人の名匠、職人等が近隣はもとより、ペルシャ、トルコ、などすべてのイスラム圏からかり出されて完成したと伝えられ、この廟のドームの高さは六十五m、台座の一边は九十四m、ドームの直下に帝と妃の棺が安置されていて、毎日八時から



タージマハールのつもり

二十二時迄一般に公開され、自由に見学ができる。

この王の在位した十七世紀の中頃は、ムガル王朝の最も栄華を極めた時代と言われ、又同時に衰退へと向う破れ道でもあった。

それは、宮廷の奢侈と陰謀、抗争、重税による社会不安と荒廃は次第に大きくなったと言われ、次の次の代の帝の失敗がムガル王朝最後の運命を決めたと伝えられている。

タージマハール建築に要した巨額の出費も又、王朝崩壊を早める原因であったとも説明された。

丁度午後三時〜四時頃、夕陽に映える華麗な大理石建築の粋を集めたタージマハールの眺望は、今次旅行の最大のハイライトであったと今も尚忘れ難い。

ここで、補途州立博物館内の販売所に於て土産物を物色する。さて英語の全く不得手な私が同行者等のアチ、コチにて上手に話して

いた英語の単語を聞き覚えに、これを真似て其所に陣列してある最も高価と思われる象牙の彫刻を値切りにかかったのである。

全くひやかしか気分初めたこの計画は大変なこととなった。

さすがは商売上手な御国柄だけに、州立の土産物販売所とは言え、剛の者の揃い。私は哀れにも京都見物で梯子を買わされた弥次喜多よろしくこの像を購入せざるを得ない破目と相なった。

懐中の具合は補途予め計算して本日迄の旅を続けたものの、ここで有り金全部をふるえば明日からの小遣銭にも事欠く状態に陥ったのである。

幸にも同行者の友が補途後岩国でドルで返してくれるなら貸してやってもよいと用立ててくれたドルの値打のなんと有難かったこと。

ホット一息した想い出は、今も我が家の床の間に鎮座するアイボリー彫刻のなごやかな、そして一段と黄金色を増して来る優しい男女の姿像、時として疲れた心を慰めてくれる私自慢の置物となっている。

さてその夜はホテルクラークシラツに旅装を解き、遅い夕食にビールを楽しむ、五階のホールにて催されたインド舞踊を観て床に入る。午後十一時。

ここで通常の飲物の値段等を説明すると、インドでもネパールでも、

ジュース一本は日本円換算で二〇〇円。ビール一本は四〇〇円で、ビールとは言え日本のそれに比し田舎ッポイ味であったと記憶している。

十二月二日六時半モーニングコール、朝食・七時四十分出発。車は郊外の平原をジャイプールに向って走る。

一帯は砂漠に似た風景に点々と草叢を見る程度で赤茶けた土の一本道は続く。この辺では処々にバスは駱駝の群に出合う。

こんな荒野の涯にジャイプールの町があるかとも思えず半ばうたがっていた程だ。昼食抜きでのバスの疾走は午後二時を過ぎた頃、ようやく緑の樹木が目に入り、更に進むにつれて驚くべき城下町然とした都市に入る。今宵の夢路を誘うホテルラムバーバラスの玄関に到着。遅い昼食の後、市内観光に足を運ぶこととなる。

ここは旧市街と新市街に分れており、ムガル王朝滅亡後にできた街である。

旧市街は城壁がめぐらせられ、淡紅色の石造のため、別名ピンクの街と呼ばれている。

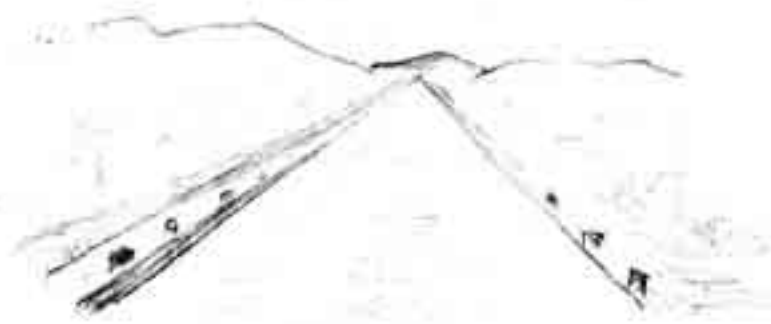
州都であること、人口四十万以上インドでは比較的恵れた富裕の地域であり、現在の連邦制となる迄は各地に王と称し、藩王を称する豪族等の栄えた名残りの城跡があらこちに点在する旨の説明がある。

この街では、まず第一の城門を入ると繁華街となり、順次案内される城や宮殿は、明日観光予定の山上の宮殿と区別してか、市内宮殿、風の宮殿等を巡り一行は疲れた体をホテルに入る。

部屋に入ると机の上に大きなロッソクの備付けがある。

サテナと案ずるに停電用に置かれたものらしく、七時過ぎはたして雷雨と共に停電となり早速ロッソクの世話になる。

三十分位の後再び通電して明るさを戻した。



禿山と褐色の大地、はてしなく続く道路

久しぶり強い雨が降り、雷鳴を聞きながら、先刻ガイドの説明によるこの地方が他に比し富裕だと言われた理由、それは降雨による水の恩恵が乾燥に苦しむインド全域の中、この地方は降雨の影響にて生活が豊かなのだな一と思う。

人類生活に水の如何に必要度の大きいかをつくづく考えながら、うとうと夢路を辿る。

翌十二月三日、雨は昨夜の中に上り、今日も又晴天である。

七時五十分、バスはホテルを出発。昨日見た風の宮殿も朝陽に映え、車窓よりの眺めは格別である。

バスは小さい湖の中に浮かぶ水の宮殿を右側に見て、往古の繁栄のスケールの雄大さを思う。

目的地、山の宮殿の入口に到着。麓より山頂の宮殿迄は観光用タクシーより象の背を借り、四人乗りの箱鞍にユラリユラリと坂道を歩む。

そのスピードは徒歩よりも遅々として、一風変わった調子の笛を吹きつつ、付添う現地人のオッサン達と共に、城塞伝いに登坂する。

頂上の宮殿、その城壁は今もなおしっかりとした建物がランドウと化しているが、充分使用できる状態をもったいなと思う。

気象状態の悪化がもたらした水不足による廃虚化は惜しいが、どうにもならない。

山頂の城塞より山並を走る碧の線

は、中国の山海関より走る万里の長城をホット想い出させる程である。バスはスピードを上げ疾走、二時間を経るも樹木も草も見えない禿山。不毛に近い砂漠の一本道を砂ぼこりを立てて走る。

十一時半、ようやく緑の樹のある村落に着き小憩となる。

飲料水を汲むため二頭連れの牛が仲よく並んで長い長い綱を引き、深い井戸より地下水を汲み上げている風景がそこかしこに見受けられる。

汲み上げる井戸の近くには、家畜か又は野性の獣の皮を着けたままの骨が一部風化してゴロゴロしてあり、これは本能的に水を求めてここ迄来たが、深い井戸水は己がものとする

ことができず遂に果てた哀れな獣のなきがらだろうと想像された。

再び目的地へとバスは走る。ニューデリー近くともなれば、あちらこちらに緑の森や村落、又は町らしいものがポツポツ車窓に写って来る。

やがて美しい西欧風の街並みを経て午後二時、ニューデリーの都心部へ。再び見覚えのあるアショカホテルに入り、三時半、昼食を終えてまたもや忙しい市内観光に出発する。

戦前日本の神戸に住んだことがあると言うバスガイドは、六十才位な日本語の話せる印度人の小父さんで

(体も日本人に近く小さい男)、ハタタリのきいた日本語と早口の説明に、日暮は迫り車の疾走はピッチを

上げるためか、区画のキレイな市街を巡るもネール公園、首相官邸、富豪の邸宅群、米軍の兵舎、元王邸(現在は官庁街)、ガンジー道路等の説明は右へ左へと眼をせわしく動かしているうちに過ぎてしまった。

オールドデリーとニューデリーの境に近くガンジー翁の墓と言う処で下車。

これは事実上の墓所ではなく、火葬をした跡地の記念碑に詣でたこととなる。

ヒンヅウ教徒の間では死後その遺骸の灰をガンジス川に流すことが最高の尊厳とされており、ガンジー翁の遺灰もそうされたと聞く。

バスは発車し、時刻は薄暮に近く、イギリスの統治時代総督府として建設された現地の大統領官邸となっている建物を見る。それは英国のバックingham宮殿を模して作られたと聞き、なる程そっくりだな一とうなずいた次第である。この官邸を遙かに

向い合って印度門が夕日と共に美しく眺めることができた。

時は過ぎ灯火の美しい街路をホテルに向けて帰るバスの中で、彼のハタタリ屋の小父さん、話の序に次のようなことを話していた。

今のインドは役人天国だ。役所の勤務時間は午前十時から正午まで、午後二時から四時迄で、昼食は各自その自宅に帰り昼寝のうえ午後の出勤となる。

訃報

謹しんでご冥福を
祈ります。

守戸 守殷



享年八一才（明治三十一年生）
事務所 岩国市令津町三丁目一八
番二十七号
昭和五十四年七月三十一日逝去されま
した。
昭和四十二年一月、入会
昭和五十一年五月、会長退任
昭和五十二年一月、連合会会長退任

吉田 宅治郎



享年七八才（明治三十四年生）
事務所 鹿井市大字橋井二五五四
番地の一
昭和五十四年一〇月三日逝去されま
した。
昭和四十二年一月、入会

川邊 重男



享年六六才（大正二年生）
事務所 厚狭郡山崎町通生二〇三
八番地二
昭和五十四年一月二六日逝去され
ました。
昭和四十四年二月、入会

昭和十一年の出動にも特別通り出動す
る者はなく、十時半頃出て来て、ま
ず紅茶を呑む。十一時から仕事とし
て朝という具合で、一日二時間しか
仕事をしていないと、

これは性分特異もあるだろうが、
国民へ最も感服するのは一部の市民
かも知れないが、の官僚に対する反
感がある程度代弁されたような気が
した。

この気風は、新然海上国院、役人
の一般国民に対する愛護感が強い
ではあるまいかと推して見てもまし
です。同様の国民にも不平はあるだろ
うと、

大勢の政は早く、有罪コネデー
上の半額七折は全く無く、一行は中
ネルに備り、遅い夕食に相対は早い
そとでしてで乾杯し、各々の部屋
に入る。

翌日は帰国の途につく。

一方カウチ・パンコクを経て、朝
庭の遊る放浪の向う。

自覚許したインテリ、インテリで特
に感じたこと。まず貧民衆の顔
以上にみじめな生活の美態、病か百
年位前にはなれと同じような生活に
堪えて来たとは思われる日本の農山
農村民の生活と、今世が国民生活
の現状を比較し、個人とも遠くし難
い気持ちを持ち、観光ツアーの客の一
人として、今の日本の生活はこのま
まで良いのだろうかを考へ、又ここ
迄歩いた我が国発展の要因は何人で
あるだろうか。その自覚を極めた印
度の偉大な文化、その道徳として全
球に打ち響く魂も道徳、気象の大
変動による其の他諸国に見た水に恵ま
れない不幸の大地、自然の力とは百
兆の下に生き続けようとする人間
の自然との闘い、世界の今の生活と
の比較に感入であった。

昭和五十四年土地家屋調査士試験合格者

氏名	生年月日	住居
岡村 重行	昭和二十五年十二月五日	徳三郡市川町大字大 成野六三九
前田 徳一男	昭和二十八十一月三日	徳山町金澤一三三二七
増本 賢一男	昭和二十三年十月三十一日	千原市川中本町一八〇
安本 一雄	昭和二十五年九月十一日	下関市吉島下一七六〇

防長人物抄

名物調査士紹介 ⑪

もの好きで二下性な私

岩国支部長 高杉 勇 助



の職業士地産調査士調があるのかも判れないが、反面この性格のためは事上で余り親身になり過ぎ、随分苦勞した記憶もまいたところである。

何かにつけもの好きで二下性な私である。

この性格があるから現在

である。

もちろん焼酎焼酎と手製、引伸機は高杉メソッドで作したものである。

つぎがマリージョーンというところである。

私の場合は先才関係のある恒産商をあまり読み取ることから始めたいのです。技術は別として、打ち方の基本、原の作り方、打つときの心得等精進してから行進したのであるが、所詮相手のあること、始めはなかなか踏んじて貰えなかつた記憶がある。

つぎがマリージョーンである。

市内に遊技場が建設され、箱もレックスもという時期、友人に誘われて一先放ったのが興つきたとなり、負けず嫌いの私のこと、ストリートボールでは面白味がないと、プロが来る度にマリージョーンの投げ方を習ったものである。

幸い古い指導者に恵まれ、この投げ方が身についたからには、スユアも上り、いざという時の取扱いもきくようになり、大抵の大会で上位を占

めたものである。

参考までにハイアベの記録と順位から買ったマリージョーンを載せて置きたい。

つぎに私の調り好きは大牛の会員はご存知と思う。

一杯やれば、すぐ調り出す調り者の私であるが、これは法身地に原の無形文化財神田祭りがあり、この祭りの出し物、神田調りをは少の調りから事仕させられたからである。

この調りについても人後に落ちまいとして随分苦心したものであるが、披露してみると懐かしい場面も数々思い出されるところである。

終りに、このようなもの好きで二下性な私に指は何が残っているか考えてみると、先ずは現在の職業である。

市役所在勤中で休年後のことを考え買取をとったのであるが、今では終生の天職となつてしまった。

写真はカラーとなり、きれいにはなつたが、専門店まかせがかえつて面白くなく、今では悪逆の記録を写す前後となりマリージョーンは早業したというか、自分から進んで計測することなく、メンパーが推力ないとなき状態に付き合われるものであるが、それはそれで結構楽しいひと時を過ごしている。

ボーリングは、健康のため、今で

も十日に一度ぐらいは遊ばせており、アベも一七〇前後というところである。

以上三編目、長に依頼され、自己宣伝ばかり書いてしまったが、現にこの私がこのような状態で存在しているのは、こうした歴史は、多少の調りばかりのもの、ホドカでは数人では

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10	60	90	120	150	180	210	240	270	300	330	360	390	420	450	480	510	540	570	600



会務報告



八月 三日(金) 総務部会 於会館。
 七日(火) 中国ブロック会長会 於玉造 中B総会の打合せ。
 二五日(土) 全国厚生担当者会議 於東京都 細野部長出席。
 二五日(土) 自主支部長会 於岩国市
 二六日(日) 本部研修 於徳山市 八九名参加。
 九月 二日(日) 全国広報担当者会議 於東京都 前田部長出席。
 四日(火) 企画部会 於会館。
 八日(土) 司調共催開基大会 於会館。
 二三日(日) 編紀委員会 於会館。
 二九日(土) 広報部会 於会館。
 二九日(土) 法司調三者協議会 於会館 調査士会当番 正副会長出席。
 十月 二七日(水) 登記課と企画部との協議会 於会館。
 一九日(金) 中国ブロック協議会 於玉造。
 二六日(金) 中間監査会 於会館。
 二七日(土) 司調親睦ソフトボール大会 於防府市。
 三一日(水) 全国会長会議 於福井県芦原温泉。
 十一月 一三日(火) 本部研修 於川棚温泉 五九名参加。
 一七日(土) 中国ブロック会長会議 於広島市。
 一八日(日) 企画部会 於会館 申述書様式について検討。
 二七日(火) 十二月 一日(土) 理事会 於会館
 二八日(水) 会報「やまぐち」第十二号発行。
 二八日(水) 団体保険加入申込一切。
 二八日(水) 新様式事件簿発送。
 二八日(水) 事務所仕事納め。
 二八日(水) 事務所仕事始め。
 二八日(水) 法司調三者協議会。
 二八日(水) 法務局登記課と企画部との協議会。
 二八日(水) 理事長会。
 二八日(水) 理事会・支部長会・推進員との協議会。

行事予定

十二月 一日(土) 理事会 於会館
 二十日まで 会報「やまぐち」第十二号発行。
 二五日まで 団体保険加入申込一切。
 二八日まで 新様式事件簿発送。
 二八日(金) 事務所仕事納め。
 二八日(金) 事務所仕事始め。
 二八日(金) 法司調三者協議会。
 二八日(金) 法務局登記課と企画部との協議会。
 二八日(金) 理事長会。
 二八日(金) 理事会・支部長会・推進員との協議会。
 二月中旬 事務所仕事納め。
 二月中旬 事務所仕事始め。
 二月中旬 法司調三者協議会。
 二月中旬 法務局登記課と企画部との協議会。
 二月中旬 理事長会。
 二月中旬 理事会・支部長会・推進員との協議会。
 五五年一月 四日(金) 事務所仕事納め。
 五五年一月 四日(金) 事務所仕事始め。
 五五年一月 四日(金) 法司調三者協議会。
 五五年一月 四日(金) 法務局登記課と企画部との協議会。
 五五年一月 四日(金) 理事長会。
 五五年一月 四日(金) 理事会・支部長会・推進員との協議会。

会員異動状況報告

(八月〜十一月)

支部	氏名	異動事由	異動年月日	備考
岩国	森戸 守	死亡	七三二	
下関	森山 保男	脱会	七三三	会社勤務の都合上
山口	山田 勇	入会	八一四	佐波郡徳地町八坂一〇五の二
下関	徳永 忠弘	脱会	八二〇	業
〃	野間口 進	入会	二〇一	下関市幡生宮の下町二〇番五号
岩国	吉田 宅治	死亡	二〇三	
徳山	竜角 信夫	入会	二〇八	光市大字島田二八四一の二
岩国	宮本 克己	住所変更	二一一	玖珂郡周東町大字下久原五八九の六
下関	磯部 豊盈	住所変更	二一四	下関市長府浜浦町二四の四
〃	白根 治一	〃	二一一	
〃	白根 圭子	〃	二一二	
〃	〃	〃	二一三	

編集雑記

☆政・官界の腐敗ぶりは、とどまるところを知らず。連日の紙面にも、カラ超動カラ出張と腹の立つことばかりです。

●我々シガナイ調査士には、とんと縁のないお話しで、せめてもカラはカラでも、カラオケ程度で我慢するしかありません。

☆今回は、久野氏と新本氏にガンバっていただいたおかげでようやく十六ページ建ての会報をお届けすることができました。

☆最近入会の会員諸氏に特に寄稿をお願いしましたが、竹森氏が応じてくれただけでいささかさびしい気がいたします。我々の会誌です。五行でも十行でも結構ですから、原稿を寄せてください。